

令和5年度「学びから始まる地域づくりプロジェクト」推進事業
第1回子ども読書ボランティア研修会 開催報告

【趣 旨】

家庭で読書の習慣を身につけ、発達段階に応じた読書活動をとおして親子の思いを伝え合い、コミュニケーションをとる「おうちで読書」の取組の普及を図るとともに、子どもへの読み聞かせに携わるボランティアの活動の幅を広げ、質を高める技術の習得の場となることを目的として開催した。

【日 時】 令和5年7月19日（水）13：30～16：30

【会 場】 G-NETしが 男女共同参画センター1階 大ホール

【参加者】 68名

（子どもの読書や読み聞かせに関心のある方、読み聞かせボランティア関係者、「おうちで読書」推進チーム関係者、公共図書館・市町行政関係者等）

【内 容】 ① 実践事例の紹介

- ・ 「おうちで読書」の取組について 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課員
- ・ 事例1：言葉を大切にするまちづくり推進協議会 西前 智子 氏
- ・ 事例2：逢坂 smile 家庭教育支援チーム 殿城 弘子 氏

② 講演

演題「楽しもう！ 絵“本”の基“本”」

講師：絵本専門士 家近 伊作 氏

③ 情報交換

グループに分かれて、絵本の読み聞かせや子どもの読書についての情報交換

(1) 実践事例の紹介

○ 「おうちで読書」の取組について（生涯学習課員）

「おうちで読書」の目的や目指す姿を伝えるとともに、アウトリーチ型の啓発活動として展開している同ブース出展について、具体的な内容を例示しながら説明した。併せて、参加者の皆様から子どもの読書活動に対する意見をいただくために、今年度実施している「こどもとしゃかん」検討事業について紹介した。

○ 「おうちで読書」（西前智子氏）

実際に「おうちで読書」ブース出展の活動をするときの流れのほか、参加者のニーズに合わせて注意していることや、活動して良かったエピソードなどを実践者の立場から発表いただいた。

○ 「人と人がつながりあう地域の読書活動をめざして」（殿城弘子氏）

マンションのロビーや駅前の広場など、地域を舞台に展開する「どこでも図書室」の取組を紹介いただいた。

(2) 講演（家近伊作氏）

滋賀県にまつわる絵本や児童書、県ゆかりの作家について紹介があった後、「絵本に描かれた絵をじっくりと見直す」ことをテーマに、参加者にもなじみ深い絵本を例に出しながら講演いただいた。

(3) 情報交換

地域も所属も異なる少人数のグループに分かれて、各テーマについてそれぞれの立場から意見や情報を話し合った。

① 子どもが読書に親しむための困りごと・工夫していること

《困りごと》

- 年齢ごと（特に高学年）の選書が難しい。子どもたちに本当にその本が合っているかが分からない。
- ボランティアに現役の保護者がいない。メンバーの固定化。
- 本に興味がない子どもたちへのアプローチ。また、絵本の大切さを知らない保護者層へのPR。
- 読み聞かせの技術、間の取り方など。

《工夫》

- 季節や学年層に合わせた本選び。本の配置や面展台の利用など。
- 親と一緒に本を読む。

② やってみたいこと、できること

- 幼稚園との連携。ボランティア活動の一環で絵本室を活性化。
- 読み聞かせの合間に工作や手遊び、かげ絵などを実施。
- 絵や内容に触れてから読み聞かせをするのもいいかもしれない。
- もっと気軽に図書館・図書館司書を利用してほしい。読み聞かせをするだけでなく、相方向のコミュニケーションを子どもたちと取ってみたい。

③ 活動する時にこんな支援や人・場所があれば

- 選書の支援やブックリスト。絵本の選定について司書からのアドバイス。
- 居住地が違えば本が借りられない。
- 一人ひとりにゆっくりじっくり向き合うための時間と人手がほしい。
- 学校司書、公共図書館司書、読書ボランティアの交流の場。
- 絵本作家の方のお話が聞ける講演。
- 困りごとを気軽に相談できる場。